

研修や避難所支援

日本防災士会 県支部と津山市 県内初協定結ぶ

日本防災士会県支部と津山市は25日、防災士に関する協定を結んだ。県



協定書に署名する神田支部長（右）と谷口市長

士との活動に関する包括的な協定を結んだ。県支部所属の防災士が市の要請を受け、各種団体の研修会での指導や避難所運営などに協力する。県支部と自治体が同様の協定を結ぶのは初めて。防災士は、NPO

法人・日本防災士機構（東京）が防災に関する知識や技能を持った人を認定する民間資格で、県支部には約80人が所属。協定に基づき、

自主防災組織設立への助言や町内会といった団体の防災研修会での指導、啓発活動に当たるほか、災害が起きた際の避難所の運営者や被災者の支援、情報収集などを行う。市役所で締結式があり、神田敬三支部長と谷口圭三市長が協定書

に署名した。神田支部長は「災害があっても死者、行方不明者を出さない安心安全な住みよいまちになるよう活動したい」、谷口市長は「地域の防災力向上、自主防災組織の活動強化につながる」と話した。（有国由花）

県内15人が入選

11月13日から岡山会場

伝統工芸展
日本工芸

第67回日本伝統工芸展（日本工芸会など主催）の審査結果が26日付で発表された。陶芸、漆芸、木竹工など7部

門に計563人が入賞。入選し、県内からは備前焼の重要無形文化財保持者（人間国宝）伊勢崎淳さん（備前市）

ら15人が入選した。同展は9月16日に東京会場（日本橋三越本店）で開幕した後、全国巡回する。岡山会場